

令和2年度 総合教育会議 議事録

1. 日時 令和2年11月26日(木) 開会 午後4時00分
閉会 午後5時15分
2. 会場 根室市役所 2階 中会議室
3. 出席者等 根室市長 石垣 雅 敏
(根室市教育委員会) 教育長 寺脇 文 康
委員 天神 正 人
" 岩崎 園 子
" 石垣 浩 一
" 魚谷 直 世
(事務局職員) 教育部長 園田 達 弥
教育総務課長 藤澤 進 司
学校教育指導主幹 山谷 良 雄
社会教育課長 餅崎 幸 寛
社会体育課長 森本 崇 起
図書館館長 松崎 誉
総務主査 飯島 美 紀
学校教育主査 大宮 正 人
(傍聴者) 3名

4. 付議事項

- (1) 根室市教育大綱の改訂について
- (2) 新型コロナ禍での教育について
- (3) 将来のまちづくりを見据えた教育について

5. 議事

<藤澤教育総務課長>

ただいまから令和2年度総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、主宰者であります石垣市長より挨拶いたします。

○ 石垣市長あいさつ

<石垣市長>

令和2年度の総合教育会議開催に際しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

教育委員の皆さんにおかれましては、日頃より本市教育行政の推進に、多大なるお力添えを賜わっておりますとともに、本日は大変お忙しい中、ご参集いただき、誠にありがとうございます。

さて、本日の総合教育会議につきましては、平成26年の地方教育行政法の改正に伴い設置されたものであり、自治体の長と教育委員が一堂に会して教育行政について意

見を交わすことで、両者が教育政策の方向性を共有し、一致した考え方で執行にあたることを目的とするものであります。

今回で7回目の開催となりますが、皆さんと有意義な情報共有および意見交換ができればと考えております。

私は、今年度の市政方針において、新学習指導要領の全面実施を踏まえた学力向上対策やICT環境の整備、通級指導教室の拡充、学校教育指導室の新設など、当市の将来を担う子どもたちのための各種施策を掲げ、市教委との連携のもと、積極的に推進しているところであります。

また、新型コロナウイルス感染症対策としましては、展開計画を策定し、「長期化への備えと社会変容への対応」として、児童生徒一人1台の学習用端末の配備、オンラインマラソン大会への支援、社会教育団体や青年団体への活動支援など、市民の学びを止めないための、迅速な施策推進に努めてきたところであります。

本日は、こうしたコロナ禍の現状を踏まえ、将来を見据えた教育のあり方について、皆さんと意見交換し、今後の教育施策に活かしてまいりたいと考えております。

教育委員の皆さんにおかれましては、忌憚のないご意見を賜われますようお願い申し上げます。開会にあたっての挨拶といたします。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<藤澤教育総務課長>

ありがとうございます。それでは会議に入りたいと思います。

会議の進行は、主宰者であります市長にお願いいたします。よろしく願いいたします。

(1) 根室市教育大綱の改訂について

<石垣市長>

まず初めに議題の(1)「根室市教育大綱の改訂について」であります。

教育部長より説明をお願いします。

- ・教育部長から別添「第2次 根室市教育大綱(案)」に基づき説明

<寺脇教育長>

今回の改訂で大きく変わったところは1ページ目と2ページ目になり、内容としましては、5番として「新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた教育の推進」6番として「国のGIGAスクール構想に基づく情報教育の推進」7番に「子どもを育てる環境づくりの充実」として幼保小、小中、中高の教育連携や、設置が努力義務とされたコミュニティ・スクールについて、これらを今回の一番大きな改訂部分とさせていただいたところであります。

<石垣市長>

今の説明について各委員よりお気づきの点がありましたら、ご発言をお願いします。

<魚谷委員>

根室西高校と根室高校が統合し、1校体制になったことで中高一貫教育が推進しやすくなったと思うのですが、来年の根室高校の卒業生160人のうち130人が市外へ転出してしまい、30人しか残らない。高校は道の管轄になるとは思いますが、小中学校の連携に比べ高校との連携は非常に薄いと感じています。一番多感な時期に郷土愛を育てられないことは大きなハンディであります。高校の教育は大学に進学させるためだけにあるのか、そうではないと思います。市内に1校しかない根室高校、もっと地域連携を深め、地元根室が誇れる高校生を育てていきたいなど、そのような政策を是非お願いしたいと思います。

<石垣市長>

確かに今言われたとおり、地元企業の方が雇用したくても、高校卒業生がなかなか根室市に残ってくれない中で、今回新たに高校の支援組織を民間の皆さんと共に立ち上げ、今回のノートパソコン貸与及び贈呈をはじめとした取り組みをスタートさせたところです。今後、地域と高校生がしっかりと結びついていくための、さらなる取り組みが大事だと考えています。

また、大学を卒業し見識のある先生方は地域の財産であります。以前は、先生たちが地域に溶け込んで様々な活動の主体的な役割を果たしていただいていたのですが、最近はなかなか地域との関わりが持てず、自分は今あと数年でいなくなるからという捉えをする方が多くなっていると感じており、そのことについては私共も悪いのかと思いますが、先生も含めて大切な人材ですので地域で活躍していただくことが大切であります。

こうした中、今回のノートパソコンの貸与及び贈呈はちょうど良い機会として捉え、根室高校としっかり連携を取って育んでいきたいと思っております。

今回コロナ対策として第2回目を行いました。根室から出て大学等へ通っている学生への水産物の発送「根室出身学生応援！！ねむろの旨いをお届け隊！」は、一人当たり5千円相当の予算でありましたが、大変ありがたいことに実際1万円相当の水産物が送付されています。それは各水産加工会社が「地元の子に送るのであれば」ということで採算抜きで提供してくれているものであり、このような地域と連携した政策は大事なのでしっかり取り組んでいきたいと考えています。

それでは、本案を令和6年度までの教育大綱として承認することで、皆さんよろしいですか？

<各教育委員>

一同承認

<石垣市長>

ありがとうございます。それでは、この「第2次 教育大綱」をもとに、今後の教育行政を推進してまいります。

(2) 新型コロナ禍での教育について

<石垣市長>

次に議題の(2) 新型コロナ禍での教育についてであります。

ここからは、各教育委員さんに問題提起していただき、意見交換したいと思います。
はじめに、天神委員よりお願いします。

<天神委員>

今年2月から始まった新型コロナウイルス感染症拡大により、学校教育現場も社会教育現場も大変なことと思います。保護者などの立場としては安全が一番大事だと思うのですが、学校が休みだったり、図書館が休みだったり、子どもたちが出かける場所がないくらいの生活が続きました。かなり収まってから学校が再開する時に、私の姪は、それまでそのようなことを言ったことがないのに「学校へ行きたい」と言っており、休みが長くなると友達と会いたい、先生と会いたいといった気持ちになるようです。学校行事等についても中止になったり延期になったり運動会も各学年で行ったり場所を変えたり工夫され、私が行っている少年団のバドミントンについても、青少年センターで通常6面使えるコートをも3面のみ使用し、試合の際も選手以外はマスクをして、主審も余計なことは言わず、子どもたちも歓喜の声なども上げないなどの規制をして何とかやっている状況です。

運動会等も保護者は席を作らず立って見てください、自分の子どもの出番が終わったら帰ってください、などの制限があっても、保護者は自分の子どもを見ることができて良かったと喜んでいるので、是非学校行事を止めないでやっていただきたいと思っています。

<山谷学校教育指導主幹>

今年はコロナ禍の中で、運動会や文化祭などの学校行事ができるのかと心配しながら、1学期に予定していた運動会や修学旅行を2学期に移して、子どもたちの思い出づくりのために何とかできるようにしてあげたいという先生たちの思いもあり、授業参観形式での開催など工夫を凝らして行ったことにより、子どもたちも保護者も納得し、満足した形で行事を終えることができて良かったと思っています。

小学校6年生と中学校3年生にとっては修学旅行が一番の思い出づくりとなりますが、小学校は8月から10月の間で道東周辺を回り、中学校については札幌市がコロナの関係で行けないということで行き先を変更、柏陵中については今年オープンしたウポポイを見学し、その後函館まで足を延ばしました。今まで東京へ行っていた落石中学校は今回道内に変更し旭川へ行きました。旭川への行程は、花咲線を利用して釧路まで行き、釧網線を利用して釧路から網走へ行き、さらに石北線を利用して網走から旭川へ行くという、人数は少ない学校ですが子どもたちは列車の旅を満喫する形で行ってこられたということです。

また、GoTo トラベルを利用することで、バスを増便してもらえたり、修学旅行に限定してホテルの部屋の数を増やしてもらおうなどして、子どもたちや先生方も満足し喜んで帰ってこられたことが良かったと思っています。

<天神委員>

私は根室高校の学校評議員をしており、今年はこのコロナ禍でも根室高校の吹奏楽部や書道部、演劇部などが各大会等で素晴らしい成績を修めていることについて先日、校長先生や顧問の先生方へ聞いたところ、全て生徒の頑張りによるものであるとのことでした。それは小中学校で積み重ねた努力が花開いたものであり、そのような生徒たちを育てた小中学校の学校現場に携わる方々はもっと自信を持っていいと思います。

今年のコロナ禍での iPad の導入状況や授業への活用、今後のリモート学習の展望について伺います。

<山谷学校教育指導主幹>

＝別添資料「根室市内小中学校への iPad の配備について」により説明＝

<松崎図書館長>

＝別添資料「新型コロナウイルス関連に係わる事業等実績報告」により説明＝

<石垣市長>

このコロナ禍で、なかなか先が見通せない中ではありますが、「子どもたちの学びを止めない」ために必要な対策を、これからも継続的に講じていく必要があると考えております。

次に、岩崎委員より問題提起をお願いします。

<岩崎委員>

今年にはコロナ禍の中、色々な行事ができなくなったり、環境がガラッと変わってしまい、子どもたちのおうち時間が長くなっている分、家庭での過ごし方が大切になっていると感じています。今は携帯電話を小学生のうちから持つお子さんが増えていますが、私が子育てをしていた頃には中学校や高校から持ち始める子がほとんどだったので、今、私が考えているのは、お子さんに携帯を持たせる時には家族で話し合いをして、使う時間などルールを決めて、それを毎日守っていくということが大切なのではないかと感じています。

例えば小学校のうちには子どもが一日携帯を使った後に親がチェックするなど、いじめや犯罪に巻き込まれないようにするためにはそこまで入り込んでもいいのではないかと感じますが、何か学校等からの働きかけなどありましたら教えていただきたいと思っています。

<餅崎社会教育課長>

＝別添チラシ「～守ろう！ぼくの・わたしの生活リズム～みんなで作ろう我が家のスイッチオフルール」により取組について説明＝

<山谷学校教育指導主幹>

学校での取組についてですが、中学生の SNS 等の利用においては、発信した言葉

や絵文字等の意味が相手にうまく伝わらず、違った意味で捉えられてしまいトラブルに発展することもあります。その場合は保護者も含め話し合いをしたり、状況によっては警察を交えて対応していかなくてはならないこともあります。

小学生については先ほど岩崎委員がお話されたとおり、携帯を与える時には保護者が一緒に使い方をきちんと確認した上で渡さなければならないと思います。

また小学校においては生活リズム表を通じてスマートフォンの使い方なども指導していますし、中学校においてはスマートフォンの使い方によるメリットとデメリットについて細かく指導をしています。

またフィルタリングは絶対に必要であるため、保護者も子どもが中学生になった時にそれを外してほしいと言っても絶対に解除してはならないですし、高校生になったら少しは認めるといった対応をしていった方が良いかと思います。

<森本社会体育課長>

＝別添資料「根室市スポーツ少年団登録状況調書」により、スポーツ少年団に加入する子どもが減少している現状について説明＝

(3) 将来のまちづくりを見据えた教育について

<石垣市長>

次に議案（3）将来のまちづくりを見据えた教育について、魚谷委員から問題提起をお願いします。

<魚谷委員>

私からは、コミュニティ・スクールのあり方について提言させていただきます。

根室を離れる子が多い中でどうやって地域の連携を深めていくか、まずは地元の人と会って話をして色々な経験をするのが大事なのかなと思います。

単純に比較して札幌市だと200万人の人がいて、200万人と出会えますが、根室は2万4千人、既に100倍近くの差があり、この差を少しでも埋めるためには、コミュニティ・スクールを活用して多くの人たちと触れ合って経験を重ねていくしかないのかなと考えます。

先日、光洋中学校において地域の町内会の方々との防災学習を実施しました。

町内会の方々は、ほとんど高齢の方だったのですが多く参加をしていただき、防災の知識だけでなく得るものが大きかったのではないかと思います。

コミュニティ・スクールの設置に関してはその目的、意義、何のために必要なのか、何のためにあるのかなどが非常に難しいところですが、地域防災の観点からは、このコミュニティ・スクールの設置は有効ではないかと考えます。

設置に関しましては、様々な問題があるかと思いますが、地域の方に協力していただけるよう報酬も含めた予算を配分していただくことが必要と思いますので、是非ご配慮のほどよろしく願いいたします。

<園田教育部長>

先ほど魚谷委員からご発言をいただきました人口減少が、学校においてどのような影響を及ぼすのかについてご説明をさせていただきます。

資料「子どもが大人になった時の社会」（非公表）によると、2050（令和32）年には、根室市内全ての小学校児童数が、1校あたり69人未満になると推計されています。

こうした推計を踏まえ、将来を見据えた学校のあり方について、今から検討を進め、実践していく必要があると考えます。

こうした中、コミュニティ・スクールの推進については、前回の総合教育会議でも議題にしておりますが、1番大切なところは「地域と共にある学校づくり」という点で、昔は黙っていても地域の方々が学校に関わってくださり、色々なところで大人と触れ合う機会がありましたが、なかなか現代社会においてはそうした機会が少なく、地域と疎遠になっている学校も数多くあるというのが現実であります。こうした現状を踏まえる中で、国がコミュニティ・スクールの設置を努力義務として位置づけ促進を図っているものと捉えています。

当市としましても、人口減少社会を見据える中で「地域と共にある学校づくり」は益々重要になると考え、推進してまいりたいと考えております。

＝議案4ページにより、現在根室市教育委員会が考えるイメージについて説明＝

<寺脇教育長>

コミュニティ・スクールについては、既に導入している地域があります。ただし定義は一律ではなく、地域によって話し合いで決められているのが実情であり、本日根室市教委では6つの連絡協議会を作ってという例をお示しいたしましたが、それぞれの協議会でどのように学校との関わり方をしていくのかは、これから密接に地域と話し合っていかなければいけない部分であります。

申し訳ございませんが、現時点においては、根室市全体でどのようなイメージで、ということがつかみ切れていないため、これから1年位をかけて事務的なことも含め、どういった形を目指していくべきか内容を詰めてまいりたいと考えております。

<石垣市長>

歯舞や落石など、それぞれの漁協があるところでは既に何か取り組みを進めていますよね。

<寺脇教育長>

歯舞では「はぼまい学」落石では「オクチシ学」というものを、それぞれの漁協さんと連携を密にしながら取り組んでおり、根室の場合、市街地以外の場所では漁協さんを含めた各地域と深く連携している部分があるので、意外とスムーズに話を進めていくことができるのではないかと考えております。

一番問題なのが市街地地区であり、今、光洋中学校と啓雲中学校が統合する状況下にあり、例えば光洋校区以外はそれぞれ小中1校ずつで構成されますが、光洋校区は花咲小、成央小、花咲港小学校と複数の小学校が一緒になるなど、そのような部分をどのように形成していくのか、また、漁協等とのつながりが薄い地域では、どういっ

た方法で特色ある地域学習を進めていけるのかが課題であると考えております。

＜石垣市長＞

30年後を見据えて、教育行政として取り組むべきことは大切な視点であると思います。

ふるさとに想いを持って、将来、どんな形でも良いからふるさとに貢献できる人材を育てていくために、私たち大人が地域の魅力を子どもたちに伝えていく取組は今後益々重要になると考えます。

次に、石垣委員、問題提起をお願いします。

＜石垣委員＞

根室市は北方四島に近い、水産業が盛んななど、小さいながらも特色のある良い街だという風を感じています。私自身、漁業関係の仕事をしておりますのでその視点から少しお話をさせていただきたいと思います。

根室の街の中を見渡すと、漁業関係者、水産研究、船の仕事など非常にたくさんの方々が水産業に携わっています。

先日、根室管内教育委員の研修があり、講義の中で、子どもたちの学力が向上すればするほど人口の流出が多くなるといったお話があり、もったもだなと思いましたが、どうしても学ぶ場を求めて出て行ってしまふのだと考えます。逆にその知的好奇心を満たせる、学習できる場があれば人を呼び込めるのかなと感じました。

根室市でいえば水産業に携われる高等教育機関等があれば、地元の間人を定着させるのはもちろん、外からも人を呼び込める、今、ベトナムなど外国人の方の技能実習等も行っており、定住して働くという、定住者を増やすことにも繋がるのではないかと考えます。

このように、特色のある水産系高等教育機関の誘致等による人口対策の仕組みが、当市の将来にとって必要ではないかと考えるところであります。

＜藤澤教育総務課長＞

＝議案5P～7P「将来のまちづくりを見据えた教育について」により説明＝

＜石垣市長＞

石垣委員のご提案は、国内屈指の水産都市であり、本年オープンした「栽培漁業研究センター」をはじめ「育てる漁業」にも力を入れている当市の将来を見据える上で重要な課題になると考えます。

今すぐという訳にはいかないところではありますが、将来に向け、検討してまいりたいと考えます。

本日、皆さんからいただいたご意見・ご提言は、今後の施策検討に向けて、庁内の関係部署とも情報共有してまいります。

本日は誠にありがとうございました。